

## ☆10月・11月・12月・1月の活動☆

探査報告会のお知らせ 東京都五日市町「横沢入地区」

探査観察会 第3回 10月18日(日) 10時 雨天次行 [次回は2月2日]

●集合地点：JR武藏五日市線「武藏増戸」駅 改札口

世話人は新海栄一 (TEL.0423-21-0289) ・鈴岡文雄 (TEL.03-3918-1945)

合宿報告会の案内 期日・所 12月6日(日) 午前10時開会 駒場住区センター

講演と総会と懇親会 世話人は桑原幸夫 (多足類懇談会 TEL.0493-62-8134)

●同封の葉書で出欠・近況(通信に掲載あり)を熊田憲一までお知らせ下さい。

調査報告会報告 伊豆にスズミグモを記録 鈴木成生

今回のハイライトは何といってもひとり離れた密林中で偶然出会ったスズミグモとその網でした。

小生合宿参加は今回が2度目となります、イソウロウグモやトリノフンドマシの仲間で初めてのものを多く観察でき大変幸せでした。

ナルコグモやヨリメグモのいる渓流に案内して下さった主催者の方に感謝します。

合宿における観察種(同行者の採集例を含む)

シベイグモ, カクハリウグモ?, ウズグモ(幼), クレイグモ, ヌカグモ, アシグロヒメグモ(幼), オヒカグモ,  
 カグヤヒメグモ, サリガキヒメグモ, ヒメグモ, アカイロトリノフンドマシ, チリイロウグモ, トビジロイロウグモ, ヤリグモ,  
 カミジンクモ, キボシヒメグモ, ハンケツオオヌキグモ, ハニグモ(幼体), タマバミタシ, リキグモサマハシグモ(幼),  
 ジヨウグモ(幼), キンカキゴミグモ, ゴミグモ, スズミグモ, コガタコガキグモ(幼), コゲチホネグモ, 二ホネグモ,  
 アカイロトリノフンドマシ, オトリリノフンドマシ, シロヒトリノフンドマシ, トリノフンドマシ, ヨリメグモ, ナルコグモ, カラカラグモ(卵のう),  
 アナガグモ(幼), オオシロカネグモ, センヨウグモ, コクタグモ, オウキロハシリグモ, アズチグモ, コアシグカグモ, アシカグモ,

御礼のことば 阿部代始子

初日からバスに乗り遅れ、すっかりみなさんに御迷惑をかけてしまいました。おわび申し上げます。初心者としてはアカイロトリノフンドマシ、ヌサオニグモのきれいどころ、ナルコグモ、ヨリメグモの業師に会えて、クモの魅力にますます引かれていくようです。帰ってからスズミグモを見たと言ったら、「一度でもいいから見たい」とずいぶんうらやましがられています。

宿からはイワツバメが数多く、コシアカツバメもまじって飛びかうのが見えました。コシアカツバメの巣は民宿の軒下あちこちにありました。

蛇石で見た三十頭程のトンボはウスバキトンボ、ヤンマはオニヤンマ、佐藤君がつかまえたのはヒメクロサナエでした。

二十七日早朝海岸近くニホンザルも一頭見かけました。午前中林道でタブノキと間違えたのはユズリハ科のヒメユズリハで(暖地海岸に多い)、小さな茶色の実をつけていたのはカバノキ科ヤマハンノキでした。また、シャーシャー鳴いていたのはクマゼミでした。

新海明さん、高橋祐子さん、計測や下見、当日の会計まで大変なことだったと思います。本当に有難うございます。車を出して下さった方々の御親切も忘れられません。皆様のおかげでと感謝しております。



脱皮が観察したくて、伊豆雲見よりオオトリノフンドマシ（♀・終令の一つ前）とギボシヒメグモ（黒タイプ・卵のうつき）を持ち帰り、飼育を行いました。いろいろな事情で、大きな飼育箱を用いるわけにはいかず、ワンカップ大皿の半分位の容積の縦長直方体のプラスチック容器を飼育容器としました。その中にクモとともに樹の葉1,2枚と、濡らしたペーパータオル（ろ紙や画用紙でも可。電車のキップ半分位にカットしたもの）を入れました。ペーパータオルは底面に張り付けておき、乾いてはがれたら取り替えるようにしました。

オオトリノフンドマシのエサとしては小さめのガを与えましたが、ガを定期的に捕まえるのはなかなか大変です。他のエサに変えられるようにしつけようとしたが、私達の目には同じ様なものと思えるチョウですら食べてもらえず、今のところこの試みは成功しておりません。

ギボシヒメグモには、蚊・アリマキ・羽アリなどを主として与えました。何でも食べそうなので、オオトリノフンドマシ用で残ったガ（たぶんニカメイガ）を与えましたところ、母子で協力して糸にくるんでいるように見え、喜んで見ていましたが、翌朝、母子ともどもほとんどのクモ達が死んでいました。連れ帰り後26日目（子グモの場合は、二度目・10日目に作った卵のうより出のう後11日目）の事でした。エサが合わなかったのか、なにかの病気か、それともこれがウワサに聞く食べすぎによる死か（エサが手に入らず与えられなかった日数は2~3日だったのですが）、大変気になっています。

ちなみに目的の脱皮の観察は、オオトリノフンドマシの場合は、夜中で見損ないましたが、ギボシヒメグモの子グモの脱皮（出のう後3日目）は観察できました。あまりに小さくて脇が割れるところなどは見えませんでしたが、次から次へと、本に出ていたとおりのポーズのプロセスで脱皮をしていくには感動しました。しかし、やはり最初、脇が割れるところから脱皮の全過程が見たいものです。

最後に黒タイプのギボシヒメグモから、どんな色のクモが、どんな割合で生まれるかという疑問もあったのですが、これは成体まで育っていませんので、はっきりとは分かりません。ただ、腹部の三つの黒斑は、確認したすべての子グモに見分けられました。ということは普通タイプ（赤タイプ）になるということか？？？。子グモの腹部に色の差が生じるのは確かなのですが、これは栄養状態の差（エサの量、食べたか食べていないか）ではないかと思います。シモングモの腹部の場合、食べないときに透明、食べると赤っぽく、たくさん食べると黒くなることが観察されるそうですし。ちなみに、母グモが存在した時、ないしは母グモの世話を行き届いていた時には、黒っぽい腹部の子グモが多かったように思えます。

(1992/8/30記)



#### 日本蜘蛛学会第24回大会終了報告

日本蜘蛛学会第24回大会が8月22~23日、千国安之輔氏を実行委員長に長野県松本市の信州会館で開催された。この大会は事務局長・新海栄一、副長・熊田憲一、池田博明で、関東在住の東京蜘蛛談話会員を実行委員として行われました。準備段階から誠心誠意労をつくして下さったスタッフのみなさんの名前をあげさせていただきます。梅林力、小沢実樹、小野辰爾、董均泉、木村知之、笠岡文雄、貞元巳良、新海明、高橋登、谷川明男、平松毅久、古浜隆、鶴薙茂代、加藤御代子、佐藤幸子、高橋裕子、萩木房枝。みなさんありがとうございました。

千国先生が日本蜘蛛学会の名誉会員に推举され、決定しました。おめでとうございます。同時に鈴木正将氏も名誉会員となられました。来年の大会は大阪の予定です。

(H.I.)

## 夕陽の雲見にスズミグモ

新海 明

### 初日

長野県白馬、福島県裏磐梯とここ2年間は北の地方での合宿が続いたので、今年は是非とも南の見栄えのするクモを探ろうということで、伊豆半島の先端の松崎町雲見で7月25日から27日にかけて談話会恒例の合宿が行われた。参加者は合計27名とまずまずであった。初日には阿部代始子さんと加藤むつみさんが最終のバスに乗り遅れるというアクシデントがあったが、夕食後の夜間観察から合宿がスタートした。この日は雲見の奥の山間部へ出かけた。私の狙いは南方系の珍種ユアギグモとクロマルイソウロウグモの発見であった。暫く嘗めるように路傍の崖でユアギグモを探すが発見できない。ユアギグモが多数いる千葉県の清澄山に比べると少々乾きすぎているようであった。ダメかなと諦めかけたとたんに小さなシート状の円網が目に入った。思わず「あった、あった」と周囲の人を呼び集めてしまった。他の人に見せている間にさらにいないかと探すとまたあった。ところがその網の中心にはなんと「隠れ帯」があるではないか。先程のクモも変だとは思ったのだ。なぜなら、千葉のユアギグモは黒く丸いのだが、ここのは白くて長いクモだったからである。「隠れ帯」が付いていたとたんにこのクモの正体に気がついた——ウズグモの幼体の網である。この網は私がかつて報告したものなのだ。初日からとんだ大恥をかいてしまった。この夜の最大の成果はムシバミコガネグモと思われるクモの発見であろう。合宿に初めて参加した高校3年生の佐藤邦入くんが採ったものである。

夜間観察を終えて宿舎の「吉右衛門」に帰ると、阿部さんと加藤さんが到着していた。そして、伊藤浩見さんも仕事を終えてから車で駆け付けてくれていた。熊田さん、谷川さんらのいる部屋で全員集まり自己紹介が行われ、その後クモ談議やヒト談議に花が咲き懇親会がいつまで続いたのかは参加者のみが知るところである。

### 二日目（午前）

夏の伊豆半島なのだから暑いのはあたりまえなのだが、早朝からクーラーを入れるほどの暑さにはまいった。私は♂ young 5頭が集まる部屋に寝ていたが、長井さん鈴木さん笠原さんらは朝早くから付近の山に採集に出かけられていた。その若さ元気さにはビックリであった。その部屋でいつも最後まで布団の中で惰眠をむさぼっていたのは私ともう一人の young♂である小澤さんであった（あっ、この日は私よりも早かったですね。ゴメンナサイ）。

朝食後に今日の採集地である蛇石方面に向かう。私は伊藤さんの車で畠守さんを迎えて小浦のバス停へ。畠守有紀さんは長野県の菅平での大学実習の終了後に現地から夜行列車を乗り継いで駆け付けて下さったのだ。これで参加者全員が揃ったわけである。蛇石の採集地に到着するとものすごい暑さだった。しかし、ミカン畑のなかで早くもトリノフンダマシ各種や伊豆半島新記録のスズミグモなどが採られていた。私も早速、畠守さん高橋祐

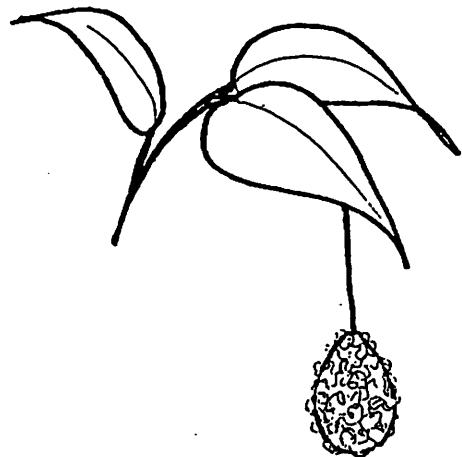
子さんらの若いご紹入を山に連れ込んで（アブナイ表見だな）・・・採集観察を始めた。暫く歩くとすぐにスズミグモの網を見付けたが肝心のクモがない。誰かがすでに採集してしまったようだ。トリノフンダマシ類も一向に見つからない。考えてみればあたりまえであった。熊川・谷川・高橋登・貞元・蓮沼といった採集の達人たちの後を辿って歩いてもめぼしいクモなどいるわけがないのだ。仕方なく「これがヒメグモ、あれがチリイソウロウグモ」などと佐藤・木村知之さんらを加えて、クモの初心者向けの勉強会を始めた。萩本房枝さんと貞元さんにも講師になっていただいた。高橋祐子さんは今年からアセスの会社に入られたので植物も知りたいとのことで、植物についての私の貧弱な知識を総動員して草木も観察に加えた。畠守さんは専門のキノコ類も採集していた。

盛夏の日差しは容赦なく頭上からふりそそぎ、正午を前に参加者一同ダウン寸前だった。そのとき登場したのが伊藤さんが車のクーラーに隠し持っていた冷えた麦茶であった。これぞ天の恵みだ。木陰で喉を潤してからトイレ休憩を兼ねてマーガレットラインへ戻る。立ち寄ったドライブインには「皿投げ」なるコーナーがあり加藤輝代さんのお子さんの倫之くんを連れてこれに興じた。風にうまく乗せると結構100mくらい飛ばすことができた。

#### 二日目（午後）

皿投げのドライブインで今日帰る方々と別れ、午後は再び蛇石へと戻り、今度は沢沿いの日影で採集することにした。渓流上ではナルコグモの鳴子網を観察したり、ヨリメグモが採集された。また、ナルコグモ・カラカラグモ・ヤマジグモなどの奇妙な卵のうが観察できたのは収穫であった。午後3時くらいまでここで調査をして、採集地を他に移すこととした。しかし、炎天下での続く調査で参加者はかなり疲れていたので最後の調査地への移動は急遽取り止めて、宿舎に戻り夜間調査に備えて休養をとることにする。

雲見の夕陽はことのほか有名なのだそうだ。ここは山から陽が昇り、海へと陽が沈む西伊豆の景勝地である。せっかく海へ来たのだから海岸まで行こうということになり、皆で浜へでた。浜は海水浴客で混んでいたが湘南や東伊豆の比ではない。平松毅久さんなど泳ぎ始めた人もいたようだ。一同は雲見のくじら館へ入り、鯨の骨格標本などを見学したあとで、当地の名物の心太に舌鼓をうつ。磯の香りの高いなかなかのものであった。その後、岬へと足を伸ばす。・と早速、海岸の崖へと目が行く。習性なのだろう、採集観察が始まってしまった。稲葉茂代さん熊川さん鈴木さんらがハンゲツオスナキグモをみつけていた。私は皆と離れて一人で岬へと向かった。陽はまだ高く海へ沈むまでには相当な時間がかかりそうである。でも、とにかく岩かけの向こうがわにある海と夕陽が見たかった（水



センショウウグモの卵のう

着の女性ではないですぞ）。そばで小澤さんがスケッチを始めた。確かに西伊豆の海岸線は鋭く高く崖を刻み見事である。濃い鉛筆がせわしなく動き瞬く間に白い画帳にそれらがはめこまれていった。陽は高くまだ落ちそうもなかったが、水平線のかなたの雲の間に見えつ隠れつしながら夕陽になろうとしていた。

突然、高橋さんがヤイトバナをもってきててくれた。

ヤイトバナ、別名ヘクソカズラ。今日の観察会で話したものだ。名前が名前だが植物自身の知ったことではない。路傍に咲くヘクソカズラの美しさに気付く人がどれほどいるのだろうか。植物画を描く私の友人は竹囲いにからみついた見事なヘクソカズラを描いた。路傍に咲くありふれた雑草の美しさにも気がつきたいものだ。名だたる景勝地や珍稀な花ばかりが大切なのではなかろう。自然保護の原点もここにあるようにおもうのだが・・・（話がそれた）。佐藤邦人くんはここでコケオニグモに似たクモをとり夕食時に皆の判断を仰いだが、見事に空振りに終わってしまいガッカリしていた。

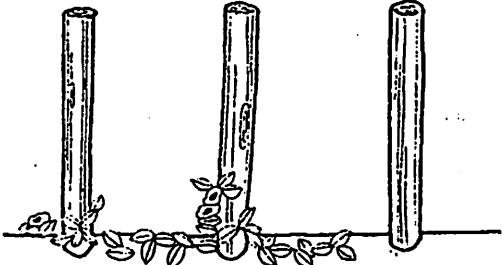
夕食後の夜間観察は宿舎のそばにある鳥糞子山の神社へ向かった。急な階段に沿ってライトの放列が進む。ここでもユアギグモはみつからなかった。ナンブコツブグモさえ1頭みつけただけだった。神社の壁にアシダカグモがいたのを熊川さんらがみつけ、そばにあった簾ではたき落として採集していた。ここはあまりたいした成果もあがらず、今度は海岸へ出ることにした。夕方の採集でハンゲツオスナキグモがとれていたので是非それをもう一度見たいという要望が強かったようだ。岩場ではクモを探すグループと星を眺めるグループがあったようだ。海岸は水蒸氣が多いためか暗れていたのだが星はあまり見えなかった。わずかに夏の大三角と北斗七星がみえただけだった。

宿舎に帰ってからの恒例のタコ部屋が、一回かなり疲れているにもかかわらず盛り上がったのは言うまでもない。

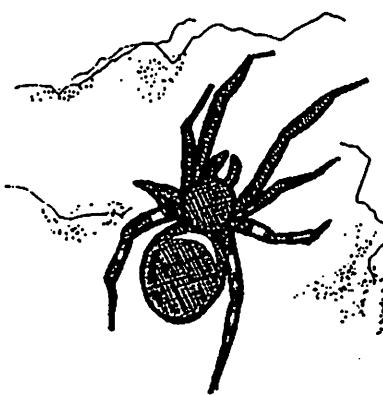
### 三日目

我が部屋の同宿者は今日も朝早くから付近の採集にてかけたようだ。7時半ころに起きると、皆さんすでに採集品の整理をされており、昨日の蛇石の渓流で観察したナルコグモとヨリメグモの網の構造の話になってしまった。半分寝ぼけていた頭も急にしゃきっとせざるを得なくなった。いや、その熱心なこと。年齢だけ若いものもしっかりせねば。

朝食後、雲見合宿最後の調査地は初日に夜間採集した場所だった。夜見る感じと昼間のそれとはずいぶんと違うものである。車を止めた付近で数頭のシロオビトリノフンダマシが見つかった。私達は相変わらず長井さん阿部さん中島さんといった植物に詳しい方々とクモを見たり植物を見たりで楽しんだ。佐藤さん親子がタケの先にいた美しいヌサオニグモを見つけた。福葉さんたちと「なるほど弊（ぬさ）になっているね」などと関心しながら



ら見いってしまった。また、長井さんが初日の中  
に見せてくださったハゼの木の実（サツマノミ）  
がたくさん見られ、これもクモとの比較なしに  
花が咲いた。集合時間になっても観察採集が終わ  
らず30分ほど延長するほど熱心な調査が続いた。  
また、帰りがけにはベッコウバチがコアシダカグ  
モを狩って巣に運搬するところが観察されたのも  
収穫だった。そして宿舎にもどっての最後の昼食  
をとり、一部の人たちは最後の温泉につかり、解  
散となった。



3日間の合宿は参加された皆さんのご協力を得て無事に終わることができた。特に、高  
橋祐子さんと木村知之さんは準備段階から多大な協力を頼った。ここに御礼申しあげる。  
なお、来年の合宿は中部・三重・関西・和歌山の各クモの会と合同で和歌山県において実  
施する予定で準備している。多くの会員に参加していただければ幸いである。

### 下記 東京蜘蛛談話会 1993年度 合宿のお知らせ

来年度の東京蜘蛛談話会の合宿を中部・三重・関西・和歌山の各クモの会と合同で下記  
のように実施する予定です。会員の皆様の奮っての参加を期待します。

#### 記

日 時 1993年7月24日(土)～26(月) 2泊3日

場 所 和歌山県中・東部 (決まり次第「通信」でお知らせします)

担当者 高橋祐子

第1回 5月17日（日）晴のち曇

参加者（50音順）：阿部代始子、梅林 力、海老原美弥子、海老原憲昭、笠原喜久雄、  
 加藤むつみ、久保田克哉、小峰光弘、笹岡文雄、貞元巳良、佐藤邦人、佐藤幸子、新海 明、  
 新海栄一、鈴木茂生、高橋 登、高橋祐子、長井芳夫、長島忠義、中島晴子、古浜 隆  
 （21名）

キノボリトタテグモ、ジグモ、ヤマトガケジグモ、マネキグモ、ミヤグモ、ユウレイグモ、  
 オオヒメグモ、ツリガネヒメグモ、オオツリガネヒメグモ、ムナボシヒメグモ、ツクネグモ、  
 オナガグモ、フタオイソウロウグモ、トビジロイソウロウグモ、ヤリグモ、カニミジングモ、  
 ムラクモヒシガタグモ、バラギヒメグモ、コケヒメグモ、ヒロハヒメグモ、チビホラヒメグモ、  
 クスミサラグモ、ツリサラグモ、ヘリジロサラグモ、ユノハママサラグモ、ザニアカムネグモ、  
 デーニツツサラグモ、チビアカサラグモ、トウキヨウアカムネグモ、ヨリメグモ、  
 ナンブコツブグモ、キザハシオニグモ、ヌサオニグモ、イシサリオニグモ、ヤエンオニグモ、  
 アオオニグモ、トガリオニグモ、ヤマオニグモ、オニグモ、ハナオニグモ、ヤミイロオニグモ、  
 ヤマシロオニグモ、サツマノミダマシ、サガオニグモ、カラフトオニグモ、オオトリノフンドマシ、  
 コガネグモ、チュウガタコガネグモ、コガタコガネグモ、ハツリグモ、ギンメッキゴミグモ、  
 ゴミグモ、ヨツデゴミグモ、ヤマトカナエグモ、メガネドヨウグモ、ジョロウグモ、カラカラグモ、  
 ナルコグモ、ヤマジグモ、オオシロカネグモ、コシロカネグモ、ヤサガタアシナガグモ、  
 アシナガグモ、ヒラタグモ、クサグモ、コクサグモ、ヤマヤチグモ、メガネヤチグモ、ハタケグモ、  
 アズマキシダグモ、スジブトハシリグモ、スジアカハシリグモ、イオウイロハシリグモ、  
 エビチャコモリグモ、フジイコモリグモ、シッヂコモリグモ、ウズキコモリグモ、  
 ヤマハリゲコモリグモ、ハリゲコモリグモ、クラークコモリグモ、アライトコモリグモ、  
 クリチャササグモ、ササグモ、チャクロワシグモ、エビチャコリメケムリグモ、カバキコマチグモ、  
 ヒメフクログモ、トビイロフクログモ、ツルサキフクログモ、ムネアカフクログモ、ウラシマグモ、  
 ネコグモ、イヅツグモ、シボグモ、シャコグモ、キンイロエビグモ、キハダエビグモ、ワカバグモ、  
 コハナグモ、クマダハナグモ、ハナグモ、キハダカニグモ、セマルトラフカニグモ、  
 ヤミイロカニグモ、ネコハエトリ、キレワハエトリ、チャイロアサヒハエトリ、  
 メガネアサヒハエトリ、イナズマハエトリ、マダラスジハエトリ、マミジロハエトリ、  
 アオオビハエトリ、ヤハズハエトリ、オスクリハエトリ、ヨダンハエトリ、エキスハエトリ、  
 ヤサアリグモ、アリグモ

以上 118種

\*但しこのうちジョロウグモは卵のう、ハタケグモは網のみでクモ本体未確認。

参加者(50音順)：池田博明、笠原喜久男、木村知之、小峰光弘、笠岡文雄、佐藤邦人、佐藤幸子、新海明、鈴木茂生、高橋登、谷川明男、長井芳夫、平松敏久、古浜隆、前川隆敏、宮島仁(16名)

ジグモ、ヤマトガケジグモ、マネキグモ、カタハリウズグモ、ミヤグモ、ユウレイグモ、ツリガネヒメグモ、カグヤヒメグモ、ヒメグモ、オオヒメグモ、アシブトヒメグモ、トビジロイソウロウグモ、オナガグモ、チリイソウロウグモ、ヤリグモ、ムラクモヒシガタグモ、バラギヒメグモ、アシナガサラグモ、ムネグロサラグモ、ヘリジロサラグモ、サラグモの一種、ナンブコツブグモ、ヌサオニグモ、イシサリオニグモ、コゲチャオニグモ、マルヅメオニグモ、ヤマオニグモ、オニグモ、コガネグモ、チュウガタコガネグモ、ナガコガネグモ、トリノフンダマシ、オオトリノフンダマシ、シロオビトリノフンダマシ、ギンメッキゴミグモ、ヤマゴミグモ、ゴミグモ、ヨツテゴミグモ、ヤマトカナエグモ、タニマノドヨウグモ、ジョロウグモ、ドヨウオニグモ、ヤミイロオニグモ、リキグロサツマノミダマシ、ヤマシロオニグモ、サツマノミダマシ、ズグロオニグモ、カラフトオニグモ、ヤマジグモ、オオシロカネグモ、コシロカネグモ、キララシロカネグモ、ヤサガタアシナガグモ、アシナガグモ、ウロコアシナガグモ、ヒラタグモ、クサグモ、コクサグモ、ヤマヤチグモ、ナミハグモの一種、スジブトハシリグモ、スジアカハシリグモ、イオウイロハシリグモ、アズマキシダグモ、ウズキコモリグモ、ハリゲコモリグモ、クリチャササグモ、ササグモ、メキリグモ、カバキコマチグモ、ヤサコマチグモ、コマチグモの一種、フクログモの一種、コアシダカグモ、シボグモ、キハダエビグモ、アシナガカニグモ、アマギエビスクモ、コハナグモ、ハナグモ、ワカバグモ、アズチグモ、セマルトラツカニグモ、ヤミイロカニグモの一種、ネコハエトリ、イナズマハエトリ、マミジロハエトリ、ウデブトハエトリ、エキスハエトリ、ヤハズハエトリ、オスクロハエトリ、ヤサアリグモ、チャイロアサヒハエトリ、メガネアサヒハエトリ、マダラスジハエトリ、デーニツツハエトリ、カラスハエトリ、アオオビハエトリ

以上93種 及び 未確定5種  
(コアシダカグモは脱皮ガラのみ)



1992.9.21. 読売新聞 (平成4年9月21日)

狙い逃さぬクモの...  
クモの巣が張りめぐらさ  
れた帽子からフロリソリ  
と隠りてくる一匹のクモ。  
それに続く女性の悲鳴が。  
マかと思われるシーンです  
が、実は、シートルの  
新手のホラー映画のひとつ  
とされる一匹のクモ。

なんだそうです。奇をてら  
つたデザインを受けたの  
か、売れ行きも上々で、集  
まつた基金は三十四もの業  
学金に役立たられるとのこ  
と。クモだけに、狙った相  
手をからあるときは得意技  
といったところでしょうか  
(写真はAP)。

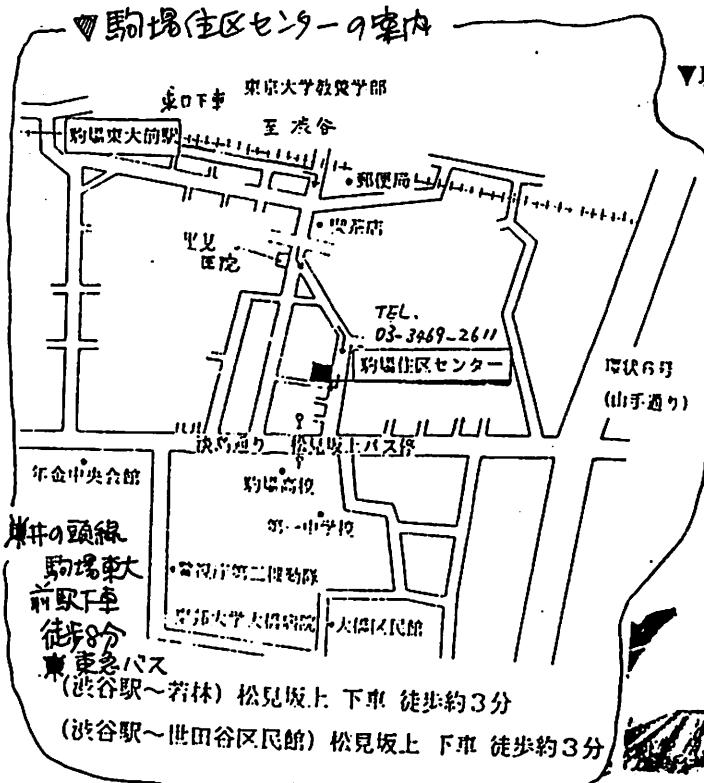
## 会員からの出張お詫びの手紙

●徳本洋（石川県金沢市）；今朝6時半、無事金沢に着きました。行きも帰りもJRの寝台車でしたので、久し振りにゆっくり寝られました。最近はクモでない仕事に振り回されて毎日、睡眠不足気味で、いさか疲れていたので、今回、クモ談話会総会に出席させていただき、大いに気分転換、よみ返った感じです。本当に充実した楽しい会でした。お世話、ほんとうに有難うございました。今後ともよろしくお願ひします。以上とりあえずお礼まで（4月27日）

●海老原憲昭・美弥子（茨城県勝田市）；良い天気に恵まれ楽しく採集観察が出来ましたことをうれしく思います。ありがとうございました。初めてなのでついで行けるか心配でしたが、皆様の和気あいあいとした雰囲気にすっかり緊張がとけました。電車時間の関係で途中で失礼いたしましたが、息子はもっとクモを探したかったと少々ふくれ気味で、「今度は絶対トリノフンドマシを見つけるんだ！」と言っております。世話を人の新海様や飯岡様に連絡せずに帰ってしまい、申し訳なく思っております。またこれからもよろしくお願ひいたします。（5月の観察会の後で、5月18日）

●加藤輝代子（千葉県市川市）；バラグアイに山張中の夫からの8月22日付の手紙にクモのことが書いてありますので紹介します。「ネフィラ属のクモをヤルタ島で一匹見た。それより面白いクモが博物館の裏庭にいた。博物館（ムセオ）のクモ研究者が観察しているクモで、400個体ほどのクモがほぼ等間隔に集団巣をしている。太い糸を20cmほどの幅で横に平行に何本も張って、その太い糸の間に直径20cmほどの円網がすきまなくずらりと張ってあった。奥に5mmほどの黒い丸っぽいクモが1匹ずついる。5~6階建てのマンションといった感じだ。このうすっぺらなマンションが、3~4棟平行にあるようだ。時間があまりなくてよく見ていないので正確にはわからない。しかし、これは幼生で成体は2~3cmにはなるような説明をしていた」。山張中の夫の住所をお知らせしておきます。「Mr. Hiroyasu Kato, JICA PARAGUAY OFFICE, Casilla de Correo No. 1121, ASUNCION PARAGUAY」

## ▼駒場住区センターの案内



▼現地の新聞に載った加藤宏保氏（池田提供）

De izquierda a derecha aparecen los ingenieros Yamamoto Yoshiteru, Sebastián Jara, Kato Hiroyasu y Eduvigis Cuenca. Los orientales son expertos del JICA, mientras que los otros dos son especialistas del SENASA.



## 同定会の御案内

### ●クモの名前を知るポイント教えます●

神奈川県立青少年センターでは、科学相談事業の一環として、1992年12月20日（日）に「野外で一瞬でクモを同定するコツ（中）」という催しを行います。10時から3時まで。

今回は前回のつづきで、谷川明男・小野辰嗣氏の協力を得て、おもにゴミグモ・フクログモ・カニグモ・エビグモを取り上げる予定です。参加される方は、できれば前もって池田まで連絡して下さい。とつぜん参加でもいいですが、準備の都合もありますので、なお名前のわからないクモをお持ちの方は御持参下さい。

連絡先 〒220 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1 神奈川県立青少年センター 池田宛

桜木町駅下車徒歩10分（県立図書館隣） 電話 045-281-3131

4

## 出版案内 ●新海栄一「クモをつかむ話①～⑥」「週間朝日百科・動物たちの地球」55～60号

週間朝日百科のカメラノートに連載されたもの。日本最初の生態撮影や観察のいきさつがつづられた好読物。「ナンブコツブグモ」「トリノフンドマシ」「ハエトリグモ」「ザトウムシ」「ムツトゲイセキグモ」「ナルコグモ」と6話。雑誌は書店へ注文すれば手に入る。1部520円。

## ●月刊誌「遺伝」1992年8月号 “クモ一糸を吐く狩人”特集

関口見一「クモの鞍状腺発見小史」をはじめ7氏が執筆に参加しているほか、グラビアに新海栄一氏、近藤昭夫・板倉泰弘氏、大崎茂芳氏が写真を提供している。執筆者と論文題を挙げておこう。

小野辰嗣「クモ類の進化と分類」、吉田真「糸を紡ぐ器官」、大崎茂芳「クモの糸の性質」、池田博明「クモの配偶行動と糸」、新海明「ジョロウグモの網と餌をめぐる問題」、川名興「クモの合戦」。書店に注文すれば入手できる（927円）。池田も扱っているが送料や郵便振替手数料がかかるので、書店よりやや高くなる（750円+送料20円）。郵便振替口座「横浜0-17837 池田博明」

なお合同例会には、何冊か持っていって、実費（750円）でお預けします。ところで、池田は「遺伝」10月号に「マウスの断面標本作成法」も書いていますので興味のある方はごらん下さい。

## ●熊田理恵著「クモ雑学講座」（川崎青少年科学館年報No.9）

川崎市青少年科学館平成2年度事業報告に載った、1991年3月17日に行った自然観察会“クモ雑学講座”（講師・熊田憲一、谷川明男）のテキスト（熊田理恵さんの作）は、このまま全国の自然観察会で使える。年報にこれを全篇掲載した科学館の英断にも拍手を送りたい。

## NHK朝のモーニングワイド NHK 朝のモーニングワイドで「東京のクモ」 池田博明

1992年9月19日（土）；NHK朝のモーニングワイドにクモが登場、高尾山で新海栄一氏が解説、たった5分間だったが、東京でたくましく生きているクモが紹介された。新海さんによれば撮影は9月17日に行われたという。当日必ず撮れると太鼓判をおしたにもかかわらず、撮れないといけないので、予備に6時間分もジョロウグモの行動の撮影がしてあったとか。

私は運動のため見られなかったが、職場でお二人の方に今朝クモの番組があったと教えていただいた。その2日後、小田原市で採集していたところ、近づいて来た農夫の方が「なにしてるんだ？ クモ取ってるのか。この前テレビで見たぞ。東京かいちばんクモが多いんだってなあ」と話された。

## 編集部からのお知らせ 原稿をお待ちしています。

□ 会誌編集；〒223 神奈川県横浜市港北区新吉田町1523 谷川明男

□ 通信編集；〒258 神奈川県足柄上郡大井町企手1099 池田博明

会計だより 郵便振替口座 東京 7-74885 東京蜘蛛談話会

会費  
会員登録  
会員登録

1992年5月~

(敬称は省略させていただきます)

1992年9月中旬

(一般2800円・学生2000円)

1989年(平成元年)度

古沢 笑子B034.

1990年(平成2年)度

古沢 笑子B034.

1991年(平成3年)度

古沢 笑子B034.

1992年(平成4年)度

安藤 昭久B024・林 俊夫B025・笠原喜久雄B026・阿部代始子B027・元西 孝嗣B028・東 千都子B030・山川 守B031・瀬訪 哲夫B033・古沢 笑子B034・西條 雄介B035・木村 知之B036・井原 康B037・永井 均B039・貝発 慶治B040・小池 牧子B041・引田 和明B042・新開 孝B043・国見 裕久B044・小野 展嗣B045・池田 泉B046・池田 千洋B047・池田 博明B048・芦川 喜治B051・高山 見B052・浜村 徹三B053・宮下 和喜B054・北島 博B055・林 聰彦B056・平松 納久B057・寺西 仁美B058・入江 黒雄B059・川中 一裕B060・树木 敏也B061・野嶋 宏 B063・菅嶋 泉B064・吉川 勝B065・横山 和正B066・小川 新茂B067.

1993年(平成5年)度

笠原喜久雄B026・山本 一博B032・古沢 笑子B034・木村 知之B036・小池 牧子B041・池田 千洋B046・池田 千洋B047・稻葉 茂代B049・須賀 瑞文B050・遠沼 克巳B062・菅嶋 泉B064・吉川 勝B065.

1994年(平成6年)度

笠原喜久雄B026・古沢 笑子B034・遠沼 克巳B062.

1995年(平成7年)度

古沢 笑子B034.

1996年(平成8年)度

古沢 笑子B034.

1997年(平成9年)度

古沢 笑子B034.

1998年(平成10年)度

古沢 笑子B034.

会費の問い合わせには受付番号(B000)を明記  
してください。

寄付

笠原喜久雄氏・阿部代始子氏・5月採集会二次会出席者一同・古沢 笑子氏

バックナンバー代領収

濱田 龍一氏・林 聰彦氏・宮下 和喜氏。(このほか日本蜘蛛学会長野大会で販売しました)

会費の納入状況につきましては、宛名氏名に記入してある年号を御覧下さい。記入してある年号まで会費が納入されております(1992年9月中旬現在)。締め切り後に納入された方は次号の報告になります。

会費は前納制ですので、まだの方はお早めに納入をお願いします。

## 会員移動

### (入会)

東 千都子：〒606 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学理学部動物学教室  
元西 孝嗣：〒135 東京都江東区毛利2-2-8-304  
引田 和明：〒233 神奈川県横浜市港南区箕輪6-28-10 045-842-2964  
新聞 孝：〒189 東京都東村山市秋津町5-5-6 武藏丘201 0423-96-1459  
芦田 喜治：〒593 大阪府堺市小阪169-1 カルム泉北深井703号  
高山 見一：〒143 東京都大田区南馬込1-29-14 03-3774-2724  
宮下 和喜：〒193-03 東京都八王子市南大沢1-1 東京都立大学理学部生物学科  
林 聰彦：〒181 東京都三鷹市上連雀2-8-20-401 レネイティック 0422-41-6837  
寺西 玉実：〒729-61 広島県庄原市山内町649 08257-4-0507  
田中 一裕：〒060 北海道札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学農学部応用動物学教室  
樹木 敏也：〒812 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部生物学科生態学講座  
野嶋 宏一：〒700 岐阜県岐阜市中仙道192-1 おのだ園コープ102号  
小川 新哉：〒166 東京都杉並区成田東5-34-2 03-3391-8192

### (住所変更)

小滝 一孝：〒619-02 京都府相楽郡精華町櫻が丘3-36-7 07747-2-8693  
安藤 昭久：〒216 神奈川県川崎市宮前区宮崎2-6-11 パーズビルE144  
古沢 笑子：〒308 茨城県下館市旭ヶ丘2918-1 (復会)  
大久保光将：〒264 千葉県千葉市若葉区貝塚町1129-1 043-234-4673  
高橋 祐子：〒161 東京都新宿区上落合1-29-7 ムサシヤビル4F レンタルビデオ 03-5330-2821  
入江 黒雄：〒860 熊本県熊本市池田2丁目19-11 096-324-4317

### (退会)

松浦 祐司 (規定摘要退会)

### バックナンバーについて

40号以降の号があります（在庫のなくなった号もあります）。次号通信で在庫のお知らせをします。

事務局（会計を含む）〒221 神奈川県横浜市神奈川区片倉町199 熊田 憲一  
領収証の必要な方は振替用紙通信欄にその旨お書きください。

訂正・変更等がありましたらお早めに事務局熊田までご連絡下さい。

### クモのセーター

大岩 由美子（ブラジル・50）

女性が編み物をしているのが、クモがぐらさがって眺めてる。じつはクモは編み物のセーターを見て巣をセータ形にしている。作者はブラジル在住日本人。



第12回読売国際漫画大賞の応募作から

金木義四郎・ガガ笑評

ムカシ新聞日曜版 91年10月6日(金)





# クモの話(三)

クモとはどんな虫でしょ

なう

虫

でしょ

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

林俊夫

提供

上毛新聞(17)

平成4年(1992年)9月4日(金曜日)

東日本

高崎安中支局

0273-0603

0273-04341

勢多郡北橘村裏壁、小学  
校長、木暮改元さん(左へ方  
で、庭に作られたクモの巣  
にズズメが掛かり、近所の  
人たちを驚かせた。

木暮さんは少ないので  
巣は、オニクモが地上三  
を見ていたが、その後、羽  
人たちは驚かせた。

木暮さんは少ないので  
巣は、オニクモが地上三  
見ていたが、その後、羽  
人たちは驚かせた。

## ズズメがクモの巣に

北橘 糸の強さにびっくり

ばほどの庭の木の間に張  
たもので、木暮さんが、一  
羽のズズメがクモの巣に引  
っ掛かってバタバタしてい  
るのを見つけた。ズズメは  
クモの糸が羽の先にしつか  
てしまわなければなら  
ない、糸も切れずに、曲がり  
く、糸のまま飛べなくな  
ってしまった。

かのクモの糸をきれいに取  
り除いて放してやった。木  
暮さんは「チョウチヨなど  
はよく掛かっていたが、ズ  
ズメが引っ掛かるとは」と  
驚いていた。

クモの巣に掛かってバタバタ

